



「世界で一番わかりやすい航空気象—今までに無かった天気のはなし—」

西守騎世将 著  
成山堂書店, 2009年12月  
209頁, 3800円 (本体価格)  
ISBN 978-4-425-51251-5

本書の特徴を一言で言うと、「気象の知識がほとんど無い人が航空気象とはどのようなものかの筋を理解する本」といえよう。航空機は、安全運航はもとより、快適運航や定時運航のために、多くの気象情報をうけて飛行しており、このための応用気象の一分野が航空気象である。航空気象は、専門性が非常に高い。それを完全に理解するには、かなりの知識を必要とするため、初心者がとりつきにくいと言われている。

- 本書の目次を示すと、以下のようになっている。
- 第1章 実はこんなにカンタンだった天気の基本  
天気現象 大気 標準大気 温度 気温の逆転  
気圧 水分 高気圧と低気圧 台風 気団と前線  
梅雨 雲, 霧 雷雲 風 大気の安定度 視程障害  
現象 今までのまとめ
  - 第1章アネックス パイロットのための基礎知識〜興味のある人も読んでみて〜  
ウィンド・シアー 乱気流 機体への着氷 キャプ  
レター・アイシング
  - 第2章 高層気象…地上の天気を作る製造元  
高層気象 気圧の谷 気圧の峰 寒気 高層天気図  
の種類 気象予報用語
  - 第3章 身近な情報をゲットして駆使!  
現況と予報 気象観測 気象情報の入手
  - 第4章 天気図解析にチャレンジ…“神の目”で見る  
地上天気図 高層天気図 天気図を見るならここ!
  - 第5章 METAR と TAF, ATIS を完全マスター!  
METAR (定時航空実況気象通報式) 完全マ  
スター TAF (飛行場予報通報式) 完全マ  
スター ATIS (飛行場放送) 完全マスター
  - 第6章 ウェザー・ブリーフィング〜パイロットを指  
す人達へ〜  
ウェザーブリーフィング ベーシック・ウェザーブ  
リーフィング コンプリート・ウェザーブリーフィ

ング アドバイス

入門書の多くは、ある程度の知識があれば分かりやすいというもの、読んでいてだんだん何を言っているのかがわからなくなり、全体像のイメージをつかむ前にギブアップというものである。本書は、パイロットになろうかと漠然と思考している読者に対し、パイロットは航空気象の理解が必要不可欠であるとし、航空気象の基本理念を押さえつつ、多少はわからなくても先に進めばわかるからとどんどん話を進めている。最初の基本知識の説明については、気象をある程度学んだ人にとっては、「ちょっと待ってくれ」と言いたいような説明もある。ただ、そういう人は、次の章を読むのに最小限必要なイメージつくりと割り切って流し読みをすれば、面白い説明の仕方と思うであろう。読み進んで行くと、大事なことは再度説明を行っているの、読み終わると、パイロットをめざすには、難しそうな用語でも、それにはちゃんとした意味があり、これから学ばなければならぬことが見えてくるだろう。自分の命がかかる気象情報の分析と、その分析を他人に説明できるレベルまで整理して伝えること(ウェザーブリーフィング)が自在にできるようにならなければいけないとの目標のイメージ作りに役立つ本である。また、そこまではゆかなくとも、最低限、飛行場で発表される飛行場実況報(METAR)や飛行場予報(TAF)を自在に利用できるレベルまでには達することができる本で、とにかく実践的な本である。

著者履歴によると、大工として家業の建築業を手伝い、24歳のときに会社を設立、航空事業としてパイロット養成校をはじめ、自身もアメリカや日本でヘリコプターのパイロット育成教官としての資格も取っている。本書は、合理的で実践的な考え方で、ものすごく複雑そうに見える知識の塊の中から、必要な知恵をすばやく取り込み、自分の夢を実現している著者だから書けた本ともいえよう。本書を読み終わったあと、やっぱりパイロットをめざそう、あるいは、航空に関する仕事をしたいと思った人は、すぐに本格的な気象学の本を読む必要がある。航空気象を理解するためには本書の内容ではかなり足りない。しかし、その場合でも、航空気象のイメージができていたので、いきなり本格的な本を読むよりは理解が早いと思われる。

飛行場の予報は、飛行場の周辺で、雨は雨でもどの程度の強さの雨がいつから降るのか、風向が何時頃か

ら変わって何時頃からどの程度の強い風が吹くかななどが示されており、一般の天気予報よりも具体的に詳しいものである。そして、日本は空港密度が高いので、近くに観測や予報を提供している空港がある。著者は、飛行機の安全運航等に役立つように発表されている飛行場予報といっても、飛行機しか使えない予報ではないので、空港近くで行動している人は、これを利用しない手はないと強調している。実際に、東京湾でヨットを楽しんでいる人の中には羽田空港の飛行場予報を利用している人もいるなど、航空関係者以外で飛

行場予報を利用している人が少なからずいる。本書では、空港の観測報や予報を、空港にある気象台等や空港事務所の情報官室で入手する方法の他、全世界の空港を対象としているアメリカ海洋大気局 (NOAA) のインターネットサイトからの入手方法が記されている。パイロットを目指さない人にとっても、アウトドア派であるなら、飛行場の観測報や予報を利用して楽しむために、世界共通のフォーマットを理解できる本書の一読をお勧めする。

(東京航空地方気象台 饒村 曜)